

第3学年進路通信 ⑨

H27.12.22

入試の前哨戦が終了！

平成28年度入試の年内実施分が終了し、一段落しました。合格者数は153名であり、在籍312名の49%を占めます。内訳は、指定校制推薦入試69名、公募制推薦入試44名、AO入試31名、一般入試7名。進路先は、国立大10名、公立大5名、私立大79名、短大15名、専門学校42名、就職（公務員）2名です。各々が自分自身をしっかりと見つめ適切な決断をし、進路開拓を遂行した結果であると受け止めたいと思います。合格おめでとうございます。これから伊高卒業までにはまだ時間があります。努力を継続する他の仲間の健闘を支えるべく、**緊張感のある生活を継続してほしい**と思います。学年団全体のまとまりを期待しています。

すでに進路先が決定した生徒諸君には、入学までの自覚を促すために、進路先から課題が与えられているところもあるようです。大学や専門学校

校への入学は**ゴールではありません**。むしろ、社会人に一步近づく分、いよいよ厳しい道のりとなるでしょう。しっかりと準備をして4月には良いスタートが切れるよう頑張ってください。

その準備の一環として自動車運転免許の取得もあげられるでしょう。現時点で、伊高では進路先決定者153名のうちの半数以上（81名）が教習を始めています。これが、自転車の交通マナーの向上を促し、ひいては、校内を含むあらゆる社会のルールを遵守することがいかに大切か再認識することにつながれば幸いです。

センター試験受験票

12月14日に、センター試験受験票が249名の生徒の手元に配付されました。すでに写真を貼付し大切に保管していることでしょう。当日の持参し忘れは言うに及ばず、大切に過ぎた末のしまい忘れにも注意したいものです。

また、受験票には受験会場が記載されています。今年度の伊高生は、共愛学園前橋国際大学（90名）、



群馬大学桐生キャンパス（112名）、群馬県立桐生工業高等学校（47名）の3か所に分かれることになりました。試験当日にどのように会場に向かうか、よく友人や家族と相談してください。下見は、新学期になってからでは時間が無いので、**冬休み中に必ず行くようにしてください**。

センター直前トレーニング

1月9日（土）～10日（日）、1週間後の本番を想定し、時間は多少ずれるものの、本番どおりの順序で駿台模試を行います。参加申込者137名の中には進路先決定者が一部含まれていますが、基本的には、本気でセンター試験に臨む生徒たちで固められています。同じ気持ちを持つ仲間たちが「受験は団体戦」という意識をより一層高め、センター試験という最初の関門を、力強く突破してほしい。受験票以外に、エンピツ、シャープペンシル、消しゴム、エンピツ削り、腕時計などを机のどこにどのように置きますか。そのようなことも含め、**実力を十分に発揮するために工夫し、自身のルーティンを確立したい**ものです。

センタープレテスト結果

11月下旬に実施した河合センタープレテストの結果が先日、返ってきました。これが成績の出る模試としては最後のものです。

さて、成績個票には実際の得点とは別に、**センター試験換算得点**というものが示されていました。その**得点率は何%**でしたか？ ひょっとしたら、これまで諸君は合格可能性の判定や全国偏差値ばかりを注目してきたのではないのでしょうか。何度となく利用してきた受験データ冊子にはセンター得点率が掲載されていたはずですが、各大学・学部等によって課される科目は異なりますが、過去の合格者の得点率を集計し示したものであり、大いに参考になります。いかがですか？ **今回の模試で60%くらい得点できていますか？**

挑戦・実力相応・合格安全校に分けてピックアップするという約束で、諸君が挙げた9つの志望大学・学部・学科の合格可能性をあらためて眺めてください。挑戦E・実力相応C・合格安全A、あるいは、挑戦D・実力相応B・合格安全Aというような形になっていますか？ つまり、いわゆる「**滑り止め**」が確保できているかどうかということです。

国公立大は、まずセンター試験が1次試験として行われ、その結果如何によって2次試験の出願先が

自ずと決まっていきます。募集定員の多くが前期日程に割り振られていること。偏差値レベルが高くなると2次試験の配点が高くなり、記述力のない受験生には不利になること。後期日程は2次試験で学科試験を課さない場合が多いので2次での逆転が難しいこと。このような事情から、伊高生の場合、国公立大合格に固執するのであれば、前期日程で1次試験の配点が高い「逃げ切り型」のところを探して出願することになります。したがって、先日の三者面談では、センター試験結果の良し悪しに対応すべく複数の出願パターンについて話し合ったというわけです。

あまり駆け引きの無い国公立大に比べ、私立大は様々なことを考慮しなければならず複雑です。**私大の受験計画を、センター自己採点結果を見てから立てるのでは全くもって遅過ぎます。**そもそもその頃には私大入試が始まり、特に、「滑り止め」として考えたいところは比較的早い日程なので、ゆったり構えていれば終了してしまいます。

センター試験利用型の私大入試もありますが、募集定員も少なく一般的には合格水準も高いので、極論すればセンター試験というのは国公立大受験のためのものであると理解した方がよいと思います。したがって、国公立大合格に望みの薄い生徒にとってセンター試験はもはやほとんど意味はなく、せいぜい私大一般入試を受ける前の度胸試しということになるでしょう。全国で50万人を超える多くの人が挑むセンター試験ですが、それは決して易しくなく、前述したセンター得点率で50%をあげるのもなかなか困難といえます。センター試験では、偏差値70超の大学を受ける人も40程度の大学を受ける人も全く同じ問題を解きます。模試もそれと同じで、あらゆる大学を志望している人が同じ問題を解きます。したがって、いずれの受験生にも対応でき、合否判定手段としての用をなすだけの問題でないといけな

いのです。

一方、**私大入試では大学ごとのそれぞれ独自の問題を解くことになります。**その大学の受験生レベルを想定したものであり、一般的には**得点率60~70%を獲得すれば合格できると**されています。注意すべき点は、模試で合格判定が良好であったとしても私大入試で必ずしもそのまま通用するとは限らないということです。また、その逆も言えます。なぜなら、**各大学によって入試問題には特色があるから**です。したがって、赤本などで過去問をしっかりと分析、研究し、適切な対策をとることが私大攻略には必要

となります。

3月1日の卒業式までに少なくとも一つは合格を勝ち取ること！この時点ではまだ国公立大前期日程の合格発表は行われていないので、「合格を一つ」というのは、すなわち私大の合格ということになります。もちろん、どこでもよいというわけではありません。合格安全校の中でも自分自身の将来にとって少しでもプラスになる大学を選び、合格を確保したいものです。

冬休み

①**センター試験まで残り3週間余り**となった今、何をすべきか。どの科目ならば伸ばせるか、あるいはもはやセンター試験そのものに見切りをつけ私大にシフトするか。A判定の合格安全校を持たない生徒は、私大入試の戦略をおろそかにすると、危機的な状況に追い込まれかねません。そのような事態はできる限り避けたいものです。浪人して再挑戦するにしても一つ合格を勝ち取るということは次年度に向けての基準になります。

②**センター試験は試験時間の割に問題量が多い**ところ



が最大の特徴です。すなわち、時間との戦いです。**時間配分や解答順序を工夫**することが求められます。時間を計って問題を解き、60分、80分、60-10-60分というパターンに慣れることが大切です。

③**冬休み中には私大の出願準備を進めよう。**インターネット出願が増えているといっても郵送しなければならない書類もあります。第3学期が始まったらクラス担任から調査書(1・2学期総合)を受け取り、出願することになります。**国公立大もセンター試験の良し悪しに対応した複数の出願パターンに合わせて、願書を取り寄せておこう。**センター試験後は一層慌しくなります。

④**冬休み中はクリスマスもあれば年越し、正月もあります。**これまでの**生活のペースをいかに崩さず維持し続けるか**が成功へのカギです。健康管理にも細心の注意を払おう。手洗い、うがい、マスク、そして、規則正しい食事、睡眠。早寝早起きを勧めます。脳を完全に目覚めさせるためには試験のどれくらい前に起床したらよいか、よく考えて徐々に調整していこう。

ここからが勝負です。最後まで努力を続けよう。